

表紙によせて

大作 晃一

きのこをはじめると、
 まず最初に、どんぐりと松ぼっくりのなる木を覚えるように教わる。
 ブナ科とマツ科の樹木が多く、きのこは菌根をつくるからだ。
 コナラ、クヌギ、シラカシあたりは、
 カブトムシやクワガタの集まる樹木として子供のころから知っているが、
 他の樹木は少しずつ覚えることになる。
 ブナ科とマツ科の次に覚えるのはカバノキ科だ。
 シラカバに生えるベニテングタケは言うまでもない。
 カバノキ科のハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属をカバノキ科の ABC と覚えた。
 ハンノキ属は *Alnus*、カバノキ属は *Betula*、クマシデ属は *Carpinus*。

北総台地を歩くと気づくのは、コナラに混じってイヌシデがやたらと目につくこと。
 千葉県の中中部横断自動車道から北のエリアの森を特徴づける樹木だ。
 イヌシデの代表的なきのこは、ヒロハシデチチタケにスミゾメヤマイグチ。
 ヒロハシデチチタケはひだの間隔がひろく、傷つけると白い乳液を出す。
 初夏から秋に発生するので、まだきのこの少ない 5 月に出くわすとびっくりさせられる。
 スミゾメヤマイグチは、千葉県では種数の少ないヤマイグチ属のきのことして貴重な存在。
 傷つけると黒変するのが特徴だ。
 コナラ・イヌシデ林ではヤマドリタケモドキをはじめ、ムラサキヤマドリタケ、
 アカヤマドリ、ミドリニガイグチなど、たくさんのイグチ類が発生する。
 まだ名前がわからないものもある。
 タマゴタケはコナラやモミなどさまざまな樹下に発生し、低山から高山まで分布の広いきのこ。
 でも、北総台地の北西部ではみたことがない。
 あるのはキタマゴタケばかりだ。

イヌシデ

【犬四手】

果穂が注連縄などに垂らす紙（四手・紙垂）に似る。葉状の果苞はクマシデよりまばら。

スミゾメ
ヤマイグチ
【墨染山猪口】

ヒロハシデチチタケ
【疎褶四手乳茸】



コナラ【小櫓】

どんぐりの木として知られる。ミズナラ（オオナラ）より小ぶり。ミズナラは千葉には分布しない。

ヤマドリタケ
モドキ
【山鳥茸擬】

タマゴタケ【卵茸】